

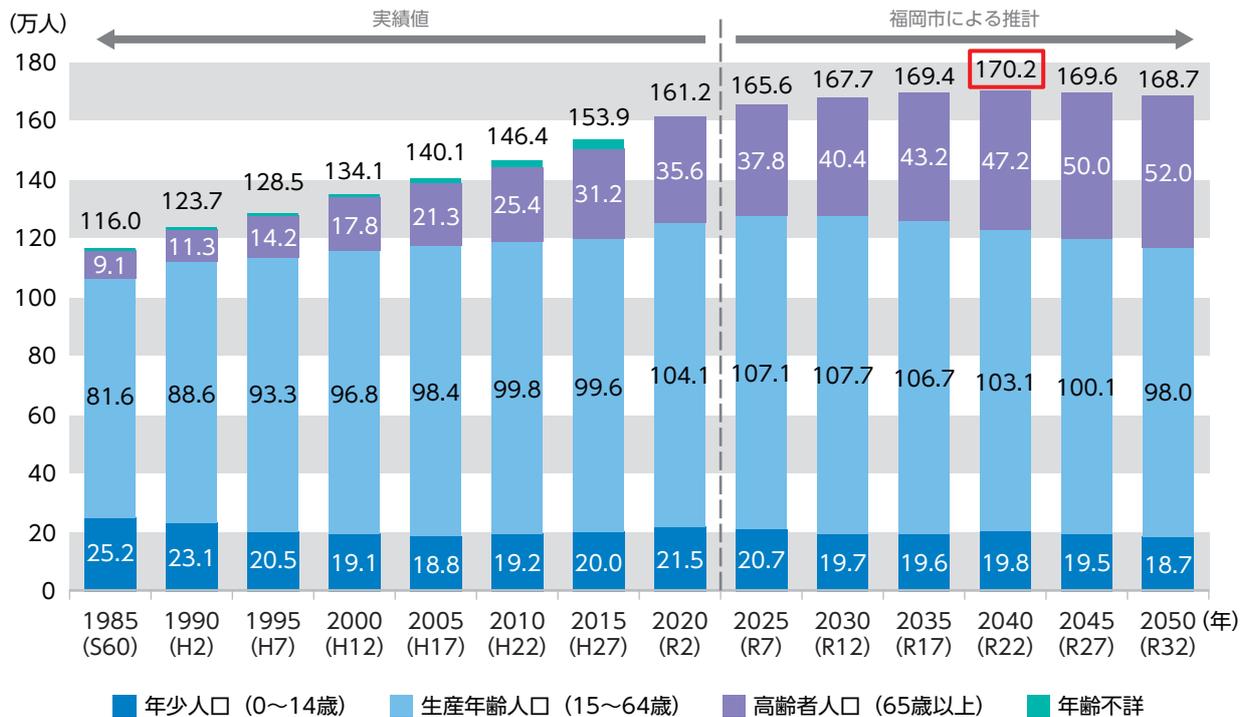
第2章 福岡市地下鉄を取り巻く環境



1 福岡市の人口動向

- 全国的に人口減少社会を迎える中、福岡市の人口は一貫して増加を続けてきています。
- 福岡市の将来人口推計によると、総人口は2040（令和22）年頃に約170万人に達し、ピークを迎える見込まれています。
- 一方で、地下鉄利用者の主要層である生産年齢人口（15～64歳）は、2030（令和12）年頃から減少に転じる見込みで、高齢者人口（65歳以上）は、引き続き増加し、2050（令和32）年頃には総人口の約3割に達する見込みです。

人口の推移



資料：国政調査及び「福岡市の将来人口推計（2024年4月公表）」

（注）2020(令和2)年の実績値については、年齢不詳を比例配分して各年齢に加算したもの。

（注）四捨五入の関係で合計が一致しない場合がある。

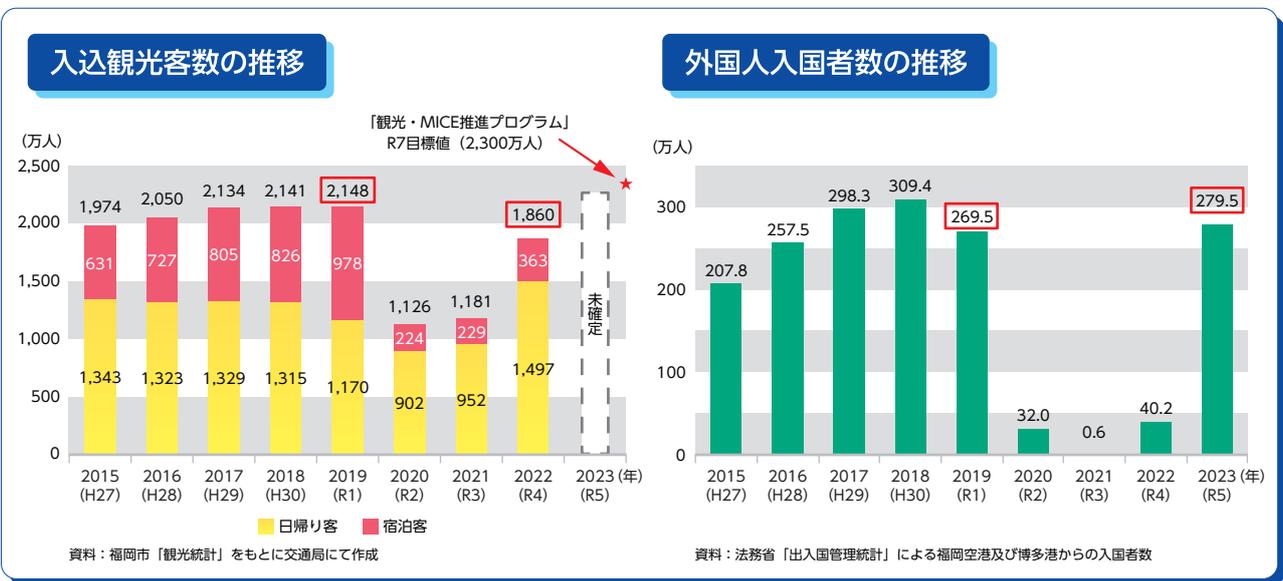


2 社会情勢の変化

(1) 観光

福岡市への入込観光客数は、新型コロナウイルス感染症の影響により2020（令和2）年に大きく落ち込んだものの、2022（令和4）年はコロナ禍前の9割近くまで急速に回復しており、福岡市の「観光・MICE推進プログラム」の目標値は、2025（令和7）年で2,300万人となっています。

また、福岡空港及び博多港からの外国人入国者数も、国の水際対策の見直し等により2023（令和5）年はコロナ禍前の水準まで回復しており、今後も外国人入国者数のさらなる増加が見込まれています。



(2) 資源価格等の高騰

不安定な海外情勢等による原油価格や物価の高騰等により、電気料金をはじめとした地下鉄の運営コストが増加しています。

(3) 鉄道事業における防犯対策の強化

2021（令和3）年に他の鉄道において車内傷害事件が相次いで発生したことから、鉄道における各種犯罪行為への対策強化が急務となっています。

(4) 脱炭素の取組み

福岡市においては、2040（令和22）年度「温室効果ガス排出量実質ゼロ」に向けて、省エネルギー機器の導入や再生可能エネルギーの利用拡大などを市民・事業者・行政が一体となって脱炭素の取組みを推進していくこととしています。

